

舌下免疫を開始される方に

基本的な薬の取り扱い 冷蔵庫で保管し、ボトル剤はたてて置いてください。薬局から自宅までの短時間は常温でも大丈夫ですが、夏場の高温の車内に長く放置しないでください。

冷蔵庫に入れ忘れた? 薬は腐りませんが、長期間常温に置くと薬の成分が失活します。1日常温でもほとんど変化しませんので、見つけ次第冷蔵してください。

長期間処方ができない薬です。 本薬剤は新規に発売された薬です。国の決まりで、新薬は発売後1年間(2015年10月までは2週間分の処方しかできません。また、それ以降も、治療の安全性から最大で1ヶ月程度までの処方となります。患者さんの希望での長期投与ができません。

発売後1年間は、前回処方から2週間たないと薬をもらえないの? いいえ、2週間以内でも処方します。毎回同じ曜日に来なくても大丈夫です。薬の無くなる前に受診してください。1週間程度残っている状態で受診すると、何かの理由で受診できない時でも安心でしょう。

何年間の治療を予定しているか? 4~5年間の治療を勧めます。根気よく治療してください。

治療スケジュール 最初の2週間は徐々に薬を増やす方法です。下表を参考にしてください。1日の投与は当院でおこないますので、処方された薬は2日目からの開始となります。3週目からは毎日1回チューブにはいった製剤を同じ量で舌下投与して下さい。

舌下薬の投与方法 最初の2週間はスプレー式で、舌下(舌の裏)に規定の回数を噴霧します。3週目からは1回ずつに包装されたラミネートチューブを全量舌下に入れます。投与後は手をしっかりと洗ってください。舌下に入れたら2分間そのままにして、その後に飲み込んでください。基本は舌下投与後に飲み込みますが、どうしても嫌な場合は吐き出して構いません。2分以上舌下に保持しても副作用は増えませんので、特別な対応は不要です。

1日の舌下は当院で行ないました。明日から2日目の舌下を行ないます。
(2日以内に開始できない時は1日目から行なってください。)

青いボトルと白いボトルの順番は絶対に間違えないでください

使い始めに空噴霧を5回します。以降、毎回の舌下前に1回だけ空噴霧します。
スギ花粉ですので目・鼻・口に入れないでください。

増量期	1週目は青いボトルです						
	1日目 (月 日)	2日目 (月 日)	3日目 (月 日)	4日目 (月 日)	5日目 (月 日)	6日目 (月 日)	7日目 (月 日)
	1噴霧	1噴霧	2噴霧	2噴霧	3噴霧	4噴霧	5噴霧
2週目は白いボトルです							
	8日目 (月 日)	9日目 (月 日)	10日目 (月 日)	11日目 (月 日)	12日目 (月 日)	13日目 (月 日)	14日目 (月 日)
	1噴霧	1噴霧	2噴霧	2噴霧	3噴霧	4噴霧	5噴霧
維持期	3週目以降はチューブに入っています						
	15日目から						
	1日1回1包を毎日舌下投与します						

舌下免疫療法の副反応の対応について

シダトレンはスギ花粉の抽出液です。通常の薬の副作用とは別にスギ花粉への過剰な反応(副反応と言います)が出ることがあります。舌下免疫療法で世界的に生命を脅かす重篤な副反応例がありませんので、過度の心配はしないでください。しかし、軽微な副反応は多くみられます。軽微な副反応は適切な対応で問題なく治療を継続できますので、慌てずに下記の対応をしてください。

副反応は30分を超える無いか? 舌下投与の副反応は投与後30分以内が多いですが、それ以後でも起こることがあります。気にかかる症状があればご相談ください。

舌下直後に舌下(投与部位)に浮腫が出現した 治療患者の数%に出る副反応です。舌下部以外の口腔内の腫れが無いかを確認して、可能であれば腫れの状態を写真にとって、次回受診時にお見せください。事前にお渡ししている抗ヒスタミン薬をまず服用してください(口腔内溶解錠ですのでこの時は舌下で溶かしてください)。腫れが広がらないかを確認して、当院の受診を予定より早めてください。当院の受診までの間は舌下投与する30分前に抗ヒスタミン薬を服用してから舌下投与を続けてください。そうすれば舌下浮腫は起らなくなりやすいです。

舌下浮腫とともに強い喘息症状(咳)、じんま疹、息苦しい感じがあれば、様子を見ずに当院を含めた医療機関をすぐに受診してください。

舌下直後に口が痒い・ピリピリする 口の中(特に舌下)が腫れていないかよく確認してください。ほとんどの例で数日間舌下投与すると消失します。続くなら当院に受診して相談してください。

舌下直後に口の中の違和感がある 口の中の違和感はよくある症状のひとつです。数日の舌下投与の継続で治まることが多いので、そのまま継続をしてください。

舌下直後に鼻炎症状が出た 舌下直後の鼻水などの鼻炎症状はよくある症状です。経過観察してください。止まらない場合には抗ヒスタミン薬を服用してください。

舌下直後に咳がでた 軽い咳は経過を見ながら継続を判断しますので、継続して構いませんが、受診時に相談しましょう。喘息症状のように強い咳症状が治まらなければ、医療機関の受診が必要です。以降の舌下投与を中止し、当院に相談してください。

喘息症状がでた 喘息が出現した場合には発作が治まるまで中断し、しっかりコントロールされてからしか治療を再開できません。適切な薬物治療で喘息が起らなくなれば治療可能ですので、必ず当院に受診して相談してください。喘息がたびたび起こる場合には治療を中止しなければなりません。

じんま疹がでた 舌下投与直後に全身じんま疹がでれば、処方している抗ヒスタミン薬をすぐに服用してください。以降の舌下投与を中止して、当院にご連絡ください。舌下投与に関与しないじんま疹は、継続可能です。食べ物などの急性のじんま疹ならば、その日は舌下投与しないでください。治まれば翌日に再開できます。手持ちの抗ヒスタミン薬をじんま疹が治まるまで服用してください。ひどいじんま疹の場合には当院を受診してください(舌下投与を中止して早い目に受診してください)。

食物アレルギーが出た 食べ物でアレルギーが出た場合には、その日の舌下投与を中止してください。一時的であれば、翌日は再開します。頻回ならば当院で相談してください。

アトピー性皮膚炎が悪化した 舌下免疫で一時的にアトピー性皮膚炎が悪化する方がみえます。軽い悪化であれば治療継続していると元に戻ります。ひどい皮膚炎の悪化の場合には、舌下投与を中断して当院にご相談ください。

舌下投与時の注意点

舌下免疫療法時に使用できない薬があります。 高血圧薬で β 遮断薬という薬は使用できません。治療中に新しく高血圧の薬の処方をうけた場合にも確認しますので教えてください。 β 遮断薬であれば、かかりつけの先生に薬の変更依頼の紹介状を書きます。

内服ステロイドは治療に影響があります。ごく短期の使用は可能ですが、長期の使用はできません。内服でないステロイド薬(鼻噴霧・点眼・吸入・軟膏など)は使用可能です。他のアレルギー性鼻炎治療薬も併用可能ですので、自己判断で回避しないでください。

体調の悪い日には舌下投与をしないでください。 体調の悪い日や熱のある日の治療は止めましょう。体調が戻ってから再開しましょう。

正しい姿勢で舌下投与してください。 必ず座位でして下さい。寝転がるとのどに流れて危険です。

舌下投与直後の注意点は? 舌下投与後2時間は激しい運動をさせてください。長風呂や過度の飲酒もやめてください。食事・飲水、歯磨きは舌下投与後5分間行わないでください。

舌下投与前後の激しい運動は絶対にしないでください。 スポーツの合間などの舌下投与は絶対に避けてください。特に舌下投与直後の運動は2時間避けてください。直後の自転車をこぐことも避けください。

どの時間帯に舌下投与するとよいか? 万一を想定すると病院が開いている昼間に舌下投与するのが理想ですが、昼間はどうしても忘れがちになるので、生活習慣にあわせて決まった時間に投与するといいでしょう。舌下投与後2時間は激しい運動は禁止です。体育のある学生や自転車で通勤通学をする場合には、帰宅後に投与するとよいでしょう。

毎日同じ時間に舌下投与しないといけないか? 運動するので時間を遅らせるなどで、同じ時間帯でなく、朝になったり、夜になったりしても構いませんが、基本的には毎日同じ時間にするように心がけてください。前日の夜に舌下した後に翌朝に舌下を行なっても問題はありません。

2分以内に飲み込んでしまった? その日は追加せずに終了してください。増量期では翌日にもう一度同じ量を舌下してください。ボトルの薬液量は多めに入っていますので不足することはありません。維持期では翌日も今まで通りにします。引き続きチューブ1本を舌下してください。

誤って多く舌下投与してしまった? 増量期で数噴霧程度での多い少ないはそのままでも問題はありません。明らかに多く投与したり、使用するボトルを間違えた時には吐き出してしまうがいいましょう。翌日は続きから行います。維持期に誤って1日2回舌下した場合には吐き出しましょう。

誤ってこぼすなどで、予定量より少なく舌下投与してしまった? その日はこぼした分の補充はせずに、少ないままで舌下してください。翌日は予定通りに行なってください。

忘れたり休薬してしまった?

舌下投与を忘れた翌日の投与法は? 舌下投与を忘れた場合にも、増量期では翌日も忘れた日の量を舌下します(以降1日ずつ遅れるスケジュールとなります)。維持期では翌日の投与量を増やしたりせずに1日1回の投与にしてください。

長期間休薬してしまった? 増量期では、休薬1週間未満は前回と同じ量を舌下して以降継続してください。休薬1週間以上は最初からになりますので、当院に相談してください。維持期では、休薬1週間未満は続きから再開してください。休薬1週間以上は処方したシダトレンを1パック持参して当院を受診してください。当院で舌下投与して安全性を確認し、以降継続します。長期休薬が繰り返されると治療中止になりますので、規則正しく治療して下さい。ご不明点は診療時間内にご連絡ください。

こんな時はどうする?

発熱したら? 発熱のある日には中止し、解熱が確認されてから再開しましょう。

歯磨きはできる? 舌下後5分程度してからの歯磨きは可能です。

歯科治療時の注意点は? 歯をかけるなどは問題ありませんが、歯科治療後は翌日まで舌下投与しないでください。歯の治療2時間前までは舌下可能ですので、早い時間に舌下投与して、歯科医院に行くとよいでしょう。歯科治療が唾液に血の混じる治療であれば、口腔内の傷が治るまで舌下しないでください。切開や抜歯などの治療を受けた場合には約1週間の舌下治療ができません。歯科医に傷の治り具合を相談するか、当院に受診してください。

口腔内をけがしたら? 傷があれば舌下液が直接傷口から入るので傷が治るまで舌下治療を休みます。口内炎も休薬してください。口内炎が反復する場合には当院受診時に相談してください。

国内旅行に行くときは? 1週間以内の旅行なら行く前と帰ってから舌下投与してください。長期の旅行の場合には、冷蔵保存での持参を考慮するか、あらかじめ受診時に相談してください。最初の2週(增量期のボトルでの治療)では、旅行が終わってから治療を開始しましょう。

海外旅行に行くときは? 海外に冷蔵保存の薬を持参するのは困難ですし、万一の現地の対応にも不安がありますので、海外では舌下投与を避けましょう。海外旅行の前に当院で投与方法を相談してください。

予防接種(インフルエンザワクチンなど)は打ってよいか? 舌下免疫療法中もインフルエンザワクチンや他のワクチンを打てます。但し、万一の副反応が出た場合にどちらが原因であるかがわからなくなるので、両者を数時間はあけて行なうようにしましょう。

治療中に妊娠したら? 妊娠が判明したら、舌下免疫を中止して、早いめに相談に来院してください。その後の対応については、よく相談しましょう。

舌下液が目に入ってしまった? すぐに流水で眼を洗い、眼症状が強ければ、当院か眼科に受診してください。舌下液のついた手で眼をこすっても眼にはいります。舌下後はよく手を洗いましょう。

花粉飛散期の対応は?

花粉飛散前からの薬の服用は必要か? 基本的には症状の出る前からの予防的なアレルギー性鼻炎治療薬は不要です。しかし、花粉症症状がでれば我慢せずに適切な薬の治療を併用してください。花粉症症状が出ても舌下免疫は継続してください。

鼻や眼に症状が出たら? 全員が舌下免疫療法で根治する訳ではありません。花粉飛散期に症状がでれば適切な薬物療法を併用しましょう。他の花粉症や、ホコリアレルギーなどでも適切な薬の治療をしましょう。

ヒノキ花粉飛散期に症状がでたら? スギ花粉症に効果があっても、ヒノキ花粉に効果のない方もみえます。その場合には我慢せずに適切な薬の治療を行なってください。

その年の花粉飛散数の影響は? 花粉飛散が多い年と少ない年で効果も大きく違います。花粉情報を参考に花粉回避もしてください。舌下免疫を行なっていてもマスクや眼鏡をお勧めします。

本説明書はゆたクリニックで使用している実物の講演用見本です。
ご利用の際には使用者の責任下でお願い致します。
ゆたクリニックではこの紙より数倍厚い紙を使用しています。